

氏 名：岡 美雪
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第169号
学位授与年月日：2019年3月9日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論文審査委員：主査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）
副査 杉下 智彦（東京女子医科大学教授）
副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）
副査 堀内 成子（聖路加国際大学教授）

論文題目：Effects of Prenatal Group Program in Rural Tanzania : Knowledge Enhancement and Connectedness with Nurses and Prenatal Peers

博士論文審査結果

岡美雪さんの研究は、タンザニアの農村地域にて、妊婦健康診査の待ち時間を活用した小グループでの妊婦教育の効果を検討した。研究施設は2か所の妊婦健診センターで、1か所は介入施設、もう1か所は対照施設とした。参加者は、妊婦108名(介入群54名、対照群54名)であった。その結果、妊娠に関する知識の「妊娠に伴う症状 (common symptoms)」について両群で有意な差が認められたが、妊娠中の危険サイン (danger signs) 及びセルフケア行動 (self-care behaviors) に関しては差がなかった。妊婦へのエンパワメントについては、尺度の中の1項目(妊婦の意思の尊重)のみ有意な差が認められた。

岡美雪さんは、修士課程から継続してタンザニア農村地域のフィールドに入り、現地スタッフと信頼関係を構築し、円滑に研究活動を遂行することができた。医療のリソースが不足している農村地域の妊婦に対し、必要な知識を増やし、エンパワメントを強化する介入プログラムは、将来的に女性と子どもの安全、健康、QOLの向上に大きく貢献すると高く評価された。また、発展途上国での助産師の支援の有効性を示す一つのエビデンスとなることも研究成果として認められた。

審査では、研究結果を踏まえ、特に考察について加筆及び修正の必要性が指摘された。

1. タンザニアの社会文化的な特性とグループ教育について

今回の研究の背景として、妊婦が医療者に質問したり、希望を述べたりすることが難しいことが挙げられていた。研究結果にて知識が向上する肯定的な結果があったが、タンザニアの文化的特性からより効果的な方法について考察する必要がある。

2. 実現・継続可能性

今回の研究では、助産師がグループに入り、知識提供及びファシリテータの役割を担っていた。実際の実践の場で、この教育の実現、継続の可能性について考察すること、さらに、現在の妊婦健診をコストエフェクティブなシステムに変革することについても検討の余地がある。

3. 結果の解釈

なぜアウトカムの一部のみ差が出たのかに関して推測される理由を考察で追記する。また、結果の良い部分の考察に偏っているため、今後に向けてどのように改善していくのかについて考察する必要がある。

4. ベースラインにおける 2 群の差について

介入群と対照群では、ベースラインにおける対象の特性のうち、宗教(ムスリムまたはクリスチャン)の構成が異なっていた。サブ解析として宗教で層化して結果を検討することが提案された。

以上のすべての指摘に関して、適切に修正されたことが確認され、博士論文審査及び最終試験は合格となった。